

子どもの事故は予防が可能です。

0 歳から19 歳こどもの死亡原因の第1位は、病気ではなく、“不慮の事故”であることをご存知でしょうか？しかも過去50年、こどもの死亡原因の1位は不慮の事故のまま、ずっと変わっていません。なぜなのでしょう。これまでは、こどもが不慮の事故に遭って傷害を受けても、病院で治療を受けるだけで完結してしまい、事故に対する具体的な予防策がとられないまま、“もっと気をつけなさい！”というお母さんへの注意喚起で終わってしまっていました。しかし、実際にはこどもの事故の原因は、親が目を離していたからという不注意や、こどもの無防備な行動だけではありません。製品の欠陥による事故や、事故がどのように起こるかという情報を社会が共有できずに対応が遅れてしまうことなども大きな原因です。

大村市は、この深刻な状況を打破し、不慮の事故からこどもを救うために、“Love&Safety おおむら：こどもを事故から守るプロジェクト”を立ち上げ、大村市に住むこども達を事故から守る社会のシステム作りをはじめました。具体的には、大村市内の医療機関および消防署などで、こども達の事故に関する情報を収集し、これを研究機関である産業技術総合研究所に送ります。ここでは工学的な手法を用いた解析を行い、その情報から大村市に必要な課題を明らかにします。そしてこの科学的な解析によって明らかになった情報を大村市全体で共有し、早期の予防対策や効果的で持続性のある社会の取り組みに繋げて行くのです。このプロジェクトには、その他に大村市教育委員会、保育園、幼稚園などの教育機関や警察がネットワークに参加しており、日本でも他に例のない地域一体型の社会システムの構築を目指しています。事故は防ぐことが出来ます。こどもを一人たりとも、不慮の事故で失わないために、私たちは前進していきたいと思っています。

大村市・大村市医師会



子どもの事故予防について、 もっと知りたいという方は



● キッズデザインの輪
<http://www.kd-wa-meti.com/>
子どもの事故事例を再現したCG動画や、収集された事故情報の検索などができます。



● 経済産業省
<http://www.meti.go.jp/>
子どもの傷害予防に向けた「キッズデザイン製品開発支援事業」を推進しています。



● (独)産業技術総合研究所
<http://www.dh.aist.go.jp/>
事故情報をもとに原因究明を行い、得られた科学的知見を広く共有しています。



● キッズデザイン協議会
<http://www.kidsdesign.jp/>
キッズデザイン賞受賞作品をはじめとする、キッズデザインのポータルサイト。



● 消費者庁
<http://www.caa.go.jp/>
「子どもを事故から守るプロジェクト」などの取り組み情報。



● 国民生活センター
<http://www.kokusen.go.jp/>
くらしの危険コーナーや消費相談、商品テスト結果など。

Love & Safety おおむら

こどもを事故から守るプロジェクト



家庭の中の「あぶない！」

■事故の特徴

やけど やけどは、重篤な結果になりやすい子どもの事故です。



やけど事故の約半分は、10歳未満の子どもです。さらに、その半分が1歳以下の乳幼児です。子どもは大人に比べて身体が小さいことから、やけどの範囲が広くなりやすく、また皮膚が薄いために重症化しやすい傾向があります。(2000年～2009年:国民生活センター調べ)

■事故事例紹介

- 100度に設定したポットのお茶を茶碗に注いだところ、誤ってかぶり、やけどを負った。(大村市)
- 熱湯の入った鍋を触ってやけどを負った。(大村市)
- 2階にある子ども部屋で子どもの服にアイロンをかけていた。机の上に使用後のアイロンをOFFにして置いたまま、1階にいるもう一人の子どもの様子を見にリビングへ行っていたところ、しばらくして子ども部屋から泣き声がした。椅子に上って、玩具を取ろうとしたときに、アイロンが落ちたよう。(東京)



ポットの蒸気によるやけどの症例
画像協力: 出口小児科医院



転倒・転落 転倒・転落は、一番発生の多い子どもの事故です。



経済産業省「安全知識循環型社会構築事業」で収集された8000件を超える子どもの事故情報を分析した結果、約半分以上が転倒・転落による事故であることが明らかになっています。

- ブランコに乗ろうとして、後ろから落ちて後頭部を打撲した。(大村市)
- 柵を上げ忘れていたベビーベッドに寝ていた子どもが、寝返りをうった際に、背中落ちて、フローリングの床に頭を打ち付けた。(東京)
- 自転車の前かごに乘せたまま、自転車を止めていたところ、目を離したすきに倒れて後頭部を打った。



誤飲 赤ちゃんは、生後5か月ごろから、手に触れるものを何でも口に入れるようになります。

子どもにとって、口に入るサイズのものが、手の届く範囲にある場合は、誤飲をしてしまう可能性が極めて高いです。直径が39mm、長さが51mm以内に収まるものは、子どもの口に入るサイズとされていますので特に注意が必要です。

- おはじきで遊んでいるときに、おはじきを口に入れて飲みこんでしまった。(大村市)
- 1、2分、目を離した間に、台所カウンターの上に蓋を開けて置いていた液体キッチンハイター原液を誤飲。口のおいをかいだらハイターのにおいがした。(東京)
- 母親が子どもを前向きに抱っこしている状態で、子どもはペンライトで遊んでいた。大人しくなったので、母親が見るとペンライトの蓋がはずれており、ボタン電池を二つ誤飲していた。(東京)



ボタン電池により、
食道入り口の粘膜が
ただれた症例



はさむ 隙間は、子どもにとって非常に危険な空間です。

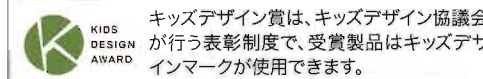
子どもの手や足は大人より小さいため、狭い隙間でも指などが中に入ってしまう。また、子どもは隙間を見つけると手や足を入れてたくなってしまいます。指はさみの事故では、重傷の場合、切断に至るので、注意が必要です。

- キッチンのドアの向こう側に子どもがいるのに気がつかず、ドアを閉めた。ドアが全部閉まらなかったため、見てみると、子どもの指が蝶番に挟まっていた。(東京)
- これまで一般家庭には無かったようなシュレッダーなどの機器が家庭に普及し、子どもが事故に巻き込まれる事例も報告されています。



シュレッダー事故の症例

■事故を予防するには



- ◆ポットや炊飯器などの「熱」が出るものは、子どもの手の届かないところに置くこと。
 - ◆手の届く位置に電源コードがないこと、踏み台になるようなイスなどがないことなど、周辺を確認すること。
 - ◆アイロンなどは、使用後すぐに子どもの手が届かない場所に置くこと。
 - ◆やけどの危険性がある家電製品は、子どもが簡単にスイッチが入れられないような製品を選ぶこと。
- などがあります。

事故予防に配慮された製品例(キッズデザイン賞受賞作品)



炊飯中に蒸気の出ない炊飯器
蒸気レスIHジャー炊飯器
(三菱電機)



炊飯中の蒸気温度が低い炊飯器
「熱さカット排気」IHジャー炊飯器
(パナソニック)

- ◆子どもは日々発達するので、昨日まで登れなかった高さでも、今日は登れてしまうかもしれない、といった目線で常に家庭内をチェックすること。
 - ◆窓際やベランダでは足場になるようなものを置かないこと。
 - ◆階段など転落の危険があるところには柵を設置するなどして、一人で行けないようにすること。
 - ◆自転車に乗せるときは、きちんと頭のサイズに合ったヘルメットをかぶせること。
- などがあります。

事故予防に配慮された製品例(キッズデザイン賞受賞作品)



足がかりの突起がない手すり
バルコニー手摺
(ミサワホーム)



子どもの頭のサイズにあわせて選べるヘルメット
チャイルドメットシリーズ
(オージーケーカブト)

- ◆子どもの口に入るサイズのものを、手の届く範囲に置かないこと。
 - ◆子どもが口に入れてしまいそうな化粧品や医薬品などは、ロックのかかる引き出しに入れるなど、容易に手が届かない場所にしまうこと。
- などがあります。

事故予防に配慮された製品例(キッズデザイン賞受賞作品)



飲み込んでみてもすぐに窒息しない蓋のマーカー
キンダーマーカーたふっこ
(フレール館)



子どもには開けられない電池蓋のリモコン
スプリット形ルームエアコン・リモコン
(パナソニック)

- ◆ドアの開閉時は必ず子どもの手の位置を確認すること。
 - ◆ドアの蝶番側は、指はさみ防止グッズなどでカバーすること。
 - ◆家庭で使用する機器類は、子どもが触れることを前提に製品選択すること。
- などがあります。

事故予防に配慮された製品例(キッズデザイン賞受賞作品)



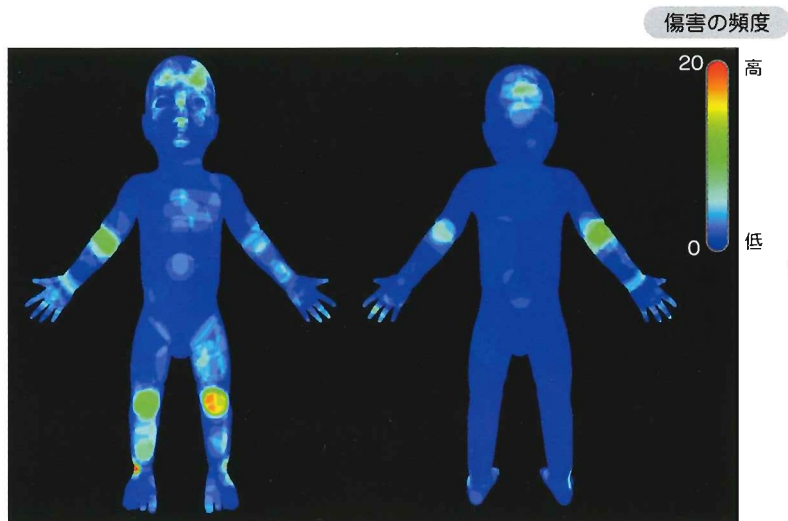
はさみやすい隙間部分にカバーをつけた折戸
フィンガーセーフ折戸
(大和ハウス工業/大安全)



指はさみの危険性が少ない折りたたみイス
HECMEC 折りたたみイス
(三恵工業)

身体地図情報システム（全傷害）

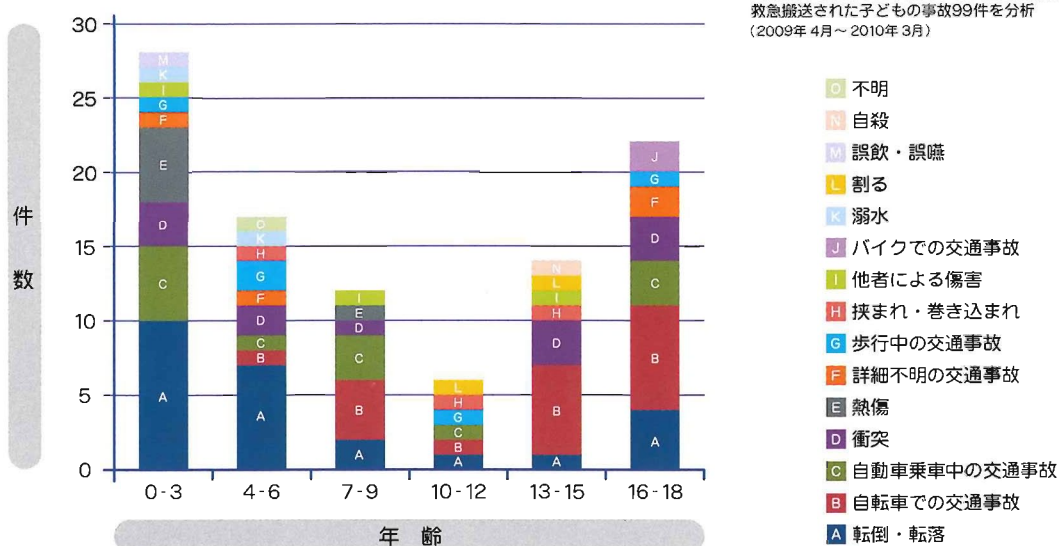
大村市傷害サーベイランスデータ
(2009年2月～2012年3月)



色で傷害の頻度を表しています
該当件数：448件

こどもが遭う事故の種類（年齢別）

大村市内でおこった事故のうち、長崎医療センターに
救急搬送された子どもの事故99件を分析
(2009年4月～2010年3月)



こどもの事故に関連した製品（0-18歳）

大村市内でおこった事故のうち、長崎医療センターに
救急搬送された子どもの事故99件を分析
(2009年4月～2010年3月)

